

番号	氏名	抱負
16	松浦 幸広	
17	平野 浩志	私は、関東部会の部会長として理事に立候補いたします。学会の役割は研究の推進、教育だと考えています。この教育を会員に還元する場が部会であり、部会長として理事会に参加して会員の声を伝え、会員が求めているニーズにあった教育プログラムを、学会を支えている、全国の会員に還元したいと考えています。また、現在理事として大会開催委員長を拝命、来年4月の第71回総会学術大会長を仰せつかっています。本学会では、春の学会の国際化を見据えて、英語発表に取り組み始めました。来年4月の大会長の経験も踏まえ、春の学会の英語化を無理のないように進め、秋の学会を充実した意見交換できる学会として、春、秋のバランスをとり参加者が満足する大会運営を考えていきたいと思っています。
18	遠藤 登喜子	私・遠藤は医師として来春で42年、放射線診断学を専攻して38年になります。日常診療では放射線診断業務にたずさわる一方、マンモグラフィのCADの開発、新マンモグラフィ装置の開発やマンモグラフィの精度管理活動に取り組んで参りました。放射線の関わる医療分野では、装置の開発、取扱い、ヒトへの適応や評価など、多分野の多くの研究者・技術者および医療関係者の協力によってようやく良い装置・良い検査・良い医療が実現すると考えています。今までの研究活動や社会活動で得られた知識やチームワークなどを他の分野における研究や事業等に応用し、広く関連団体との連携が実現することがこの分野の発展につながると考えています。本学会には2001年6月に入会、平成18年度からは学術委員会委員(副委員長)、平成24年から理事を1期務めさせていただきましたが、更に1期2年間、微力ながら本学会に貢献できればと考え、理事に立候補致しました。
19	船橋 正夫	この度役員選挙に立候補いたしました。前企画委員長として、学会の新しい教育システムを構築すべく教育委員会を立ち上げました。そして初代教育委員長として、シラバスの改訂や国際化教育の確立、e-ラーニングの充実等に向けて邁進してまいりました。まだ、読影力の向上や種々の基礎理論講座など教育テーマは山積みです。今、学会の新しい方向性は舵を切ったばかりの状態です。ここからが本当の改革だと考えています。このため継続して、臨床に従事する会員の意向を重視しつつ、柔軟かつ大胆な学会活性化を実現・推進したいと考えています。よろしくお願いいたします。
20	朝原 正喜	私は久しく中国・四国部会の役員として学会事業の企画、運営に携わってきました。その中で痛切に感じることは、この学会が今、これまで以上に重点的に取り組むべきテーマは事業の『国際化』と研究者としての『人材育成』であろう、ということです。若い会員の中には優秀な研究者が多数います。彼らが将来、国際的に活躍する研究者に育つための一助となるような事業を学会に期待していますが、実際は短期留学の受け入れ施設数が減少するなど、現実には厳しいようです。しかしながら、会員からの要望も高まっていることは疑いようがありません。国際化と人材育成という二つの大きなテーマの中から技術学会に係るべき事業を厳選し、広く全国の会員にその事業のサービスを普及させることを学会に願っていますし、そのために私がお手伝いできることになれば、これ幸いと考えます。